

若葉台地区の小中学校は、平成19年4月に小・中各1校ずつに再編統合されました。その後、学校としての役割を終えた3校の跡地活用を具体的に検討するため、平成20年9月に「若葉台地区小中学校跡地活用検討・調整委員会」が設置され、検討協議を重ねてきました。9月4日（日）第8回検討・調整委員会が開催されましたので主な内容及び関連情報についてお知らせします。

旧若葉台東小学校の整備スケジュールについて説明がありました

教育委員会特別支援教育課から、旧東小に移転整備する特別支援学校の概要と整備スケジュールについて説明がありました。（一部既報）

肢体不自由の特別支援学校である横浜市立新治特別支援学校（緑区新治町）は、児童生徒数の増加により、施設の狭隘化が進んでいます。そこで、旧若葉台東小学校跡地に移転することにより、教育環境を改善し、就学・進学 of 需要に対応します。

また、中学校個別支援学級卒業生の急増に対応するため、旧東小3階部分に、軽度の知的障害者を対象とした知的障害高等部の設置を行います。

来年1月から校舎の改修工事に入る予定ですが、それに合わせて地域の皆様を対象に説明会を開催します。詳細は改めてお知らせします。

新たな特別支援学校の概要は次のとおりとなります。

- 名称：若葉台特別支援学校（仮称）
敷地面積：19,063㎡
延床面積：9,400㎡
教室数：肢体不自由 普通教室12、特別教室4
知的障害 普通教室6、特別教室6
児童生徒数：肢体不自由 80人 知的障害 90人
学部：肢体不自由 小・中・高等部
知的障害 高等部

整備スケジュール

Table with 5 columns: 22年度, 23年度, 24年度, 25年度. Rows for 肢体不自由 and 知的障害. Includes milestones like 実施設計, 契約諸手続, 市会審査, 改修工事, 1月移転, 開校(4月).

教育委員会特別支援教育課からは、整備する特別支援学校の名称について、「若葉台特別支援学校」とする予定だが、特別支援学校の移転については神奈川県での認可が必要のため、来年の9月市会に諮り正式に決めていきたいという考えが示されました。

【関連情報】若葉台特別支援学校（仮称）コミュニティハウス及び地域交流スペースの整備について

旧東小に移転整備する若葉台特別支援学校（仮称）1階部分には、引き続きコミュニティハウスが設置されます。また、コミュニティハウスと併設の形で新たに「地域交流スペース」が整備されることになっています。これらの施設の概要は次のとおりです。

- 1 コミュニティハウス
研修室1、2、和室、市民図書室、事務室、トイレ（利用方法はこれまでと変わりません。）
2 地域交流スペース（地域の皆さんの交流や防災活動などで使用するスペースです。）
多目的室、食事室、防災会議室
地域交流スペースの利用方法等は、現在教育委員会と地元関係者で調整を行っています。
なお、現在のコミュニティハウスは特別支援学校の整備改修工事に伴い、今年の12月から約1年間休館となります。
また、グラウンド、体育館も工事期間中は利用できなくなりますのでご注意ください。

【裏面あり】

第8回検討・調整委員会の概要
日時：平成23年9月4日（日）
10:00~11:45
場所：若葉台中学校Eホール
議題：1 委員長あいさつ
2 第7回検討・調整委員会議事内容
3 3校の跡地活用整備状況と今後のスケジュールについて
4 その他



旧若葉台東小学校（同校ホームページより）

旧若葉台西中学校の整備スケジュールの遅れについて 旭区役所から説明がありました

旭区役所区政推進課から、旧西中学校の整備スケジュールが予定通り進んでいないことについて、次のような説明がありました。

「旧西中学校については、教育文化施設として整備するため、昨年度実施設計をおこなう予定になっていましたが、実施設計業務を担当する建築局と最低限必要となる工事項目を積み上げたところ、今の予算額では全く足りないということから、実施設計を1年先送りしました。

運営経費についても、旧西小学校の土地賃貸料の2分の1を充てることが決まっていますが、施設がオープンしていないため、その運営費をプールしている状況になっています。今年度プールした分については工事代金に充てられることになっていますが、それでも詰めた改修工事費とはかなりの開きがあり（改修工事費約1億円に対して、確保できる予算が約7,300万円）、今年度も実施設計にいたっていません。

また、整備後の施設を市のどこが所管するかが決まっていないため、運営形態等も詰めることができない状況ですが、暫定利用とはいえ地元の活用が進んでいるので、東小コミュニティハウスが休館になる12月までには暫定利用の枠を広げ、地域の皆様の利便性の向上を図っていきたいと考えています。

体育館の雨漏りについては、利用者にご不便をかけないように早急に対応していくため、関係局と調整を行っています。」

■これに対して、委員から次のような質問、意見が出されました。（カッコ内は行政側の回答→区の対応）

- ・バリアフリーの為に何千万もするエレベーターを設置しないと供用できないというが、そこまでしないといけないのか、もっと柔軟な対応が出来ないのか。（エレベーターがないと開所できないのかどうか、市の条例等もあるがうまく考えられる手法があるのか検討していきたい。）
- ・早く整備するために妥協せざるを得ないというも分かるが、福祉という点から誰でも使える施設を造ることは市にとっても大事なことで。そのための3,000万円が用意できないというのは納得できない。
- ・旧西中は地域防災拠点にもなっているが、資機材の置き場がまだきちんとなっていない。デジタル無線なども放置された状態だが、いつ災害が起こるか分からない状況の中では早急に整備をお願いしたい。（確かに拠点を開設するに当たっては、無線は大事なツールになるので、担当課に伝え回答するようにしたい。）→資機材置き場については整備済み。デジタル無線も仮設で使用可能な状態、来年度予算で本整備を予定（区役所危機管理担当）
- ・今年の12月から東小コミュニティハウスが工事のため休館になるので、その利用者を旧西中で受け入れたい。そのため校舎全体を開放してほしいと思っている。時間も夜9時まで開放するようにしたい。（空の芸術祭や文化祭などの後、暫定利用の枠を広げた形で利用できるよう教育委員会とも調整していきたい。）
- ・旧西中を文化・芸術・スポーツの拠点にするということでもわれわれも喜んだ。それが3,000万円がないから出来ないというのは、大横浜市としてあまりにも知恵がなさ過ぎるのではないか。次の機会には何らかの打開の方法を提案してもらいたい。

- その他** ・旧西小小委員会は、本年4月に星槎中学高等学校が開校し役割を終えたため活動を終了しました。
・次回跡地活用検討・調整委員会を12月4日（日）午後2時から 若葉台中学校で開催することになりました。



平成23年度若葉台地区小中学校跡地活用検討・調整委員会 委員

（敬称略）

委員長	山岸 弘樹（連合自治会会長）		
副委員長	南 宏市朗（スポーツ・文化クラブ理事長）		
副委員長	白岩 正明（地区社会福祉協議会会長）		
委員	服部 光雄（連合自治会事務局長）	小原 淳治（連合自治会広報理事）	
	皆川 猛文（第一自治会会長）	岩城 徹夫（東自治会会長）	
	泉妻 輝夫（二丁目南自治会会長）	武笠 信義（北自治会会長）	
	田村 八郎（中央自治会会長）	太田 正廣（とちのき自治会会長）	
	大野 清志（ゆりのき自治会会長）	松浦 一明（西自治会会長）	
	佐々木恵介（あかね自治会会長）	久保 茂美（もみじ自治会会長）	
	内山 善彦（青少年指導員協議会会長）	長沼 伸行（体育指導委員協議会会長）	
	峰松 雅子（民生委員・児童委員協議会会長）	神尊 克己（スポーツ・文化クラブクラブマネージャー）	
	堀 進（若葉台まつりの会会長）	堀部 裕（旭区老人会連合会若葉台第一支部支部長）	
	高岡 穎郎（旭区老人会連合会若葉台第二支部支部長）	磯本桂太郎（若葉台小学校PTA会長）	
	野宮 克美（若葉台中学校PTA会長）		
オブザーバー	竹内 詩朗（若葉台小学校長）	齋藤 悦子（若葉台中学校長）	
	石川 敏夫（東小コミュニティハウス館長）	小倉 剛（若葉台管理センター事務局長）	
	瀧井 明（県住宅供給公社若葉台総括室長）	一ツ谷正範（県住宅供給公社民営化推進室新規プロジェクト推進課長）	

* 行政関係委員は除く。

■本委員会へのご意見は、ファクスまたはEメールで、下記事務局までお寄せください。

【若葉台地区小中学校跡地活用検討・調整委員会事務局】 旭区役所 区政推進課 地域力推進担当

ファクス：951-3401

Eメール：as-kikaku@city.yokohama.jp

電話：954-6028